

2020年度

【公募制推薦入学選考〈併願型〉(2日目)】

【公募制推薦入学選考〈専願型〉】

基礎素養検査

2 限 目

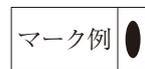
注 意

1. 選考開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は1部、解答用紙は2枚です。なお、解答用紙は、「国語」用の『解答用紙①』と「理科」用の『解答用紙②』の2種類があります。解答用紙は、選考終了後に2枚とも提出いただきますので、2枚ともに受験番号欄に記入およびマークしてください。
3. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目		ページ	選択方法
理科※	物理基礎	1～3	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
	化学基礎	5～7	
	生物基礎	9～12	
国語	国語1～国語12(うしろから始まります)		

※理科については、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択し、解答してください。解答する科目の順番は問いません。解答時間(60分)の配分は自由です。

4. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



5. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

『解答用紙①』および『解答用紙②』の2枚ともに、受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(2) 解答科目選択欄

①「国語」を解答される方

『解答用紙①』の解答科目選択欄について、「解答をする」のマーク欄にマークするとともに、解答する科目を○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

②「理科」を解答される方

『解答用紙②』の解答科目選択欄について、「解答をする」のマーク欄にマークするとともに、解答する科目(2科目)を○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

6. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください(消しくずを残さないこと)。
7. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
8. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
9. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
10. 選考終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号)

(1)

(47)

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

ロボットとの共生というのは、いつのことになるだろう。文字通り共に生きるといことなのだから、そもそもロボットが生きていないことには始まらない。そんな時代は、しばらくは来ないだろうと高を括っていたところがある。しかし、どうだろう。いま目の前で動きまわる健気な掃除ロボットに、ちよつと「してやられた感」を覚えるのである。

ロボットの真ん中にある電源ボタンを押してみる。すると、ブーツ、ブーツ、ブーツという軽快な電子音とともに、クーンと少し高いモータ音を立てながら、それは動き出しはじめた。壁や椅子、テーブルの脚などにぶつかりぶつかりしながら、進行方向を小刻みに変えていく。

I

部屋の隙

間にその身体を小さくぶつけつつも、ふとなにを思っか、方向転換をして部屋の反対側に移動してみたりする。そんなたわいもない動きに目を奪われ、しばらくその様子を追いかけてしまうのだ。

この気ままなお掃除ぶりは決して II ものとはいえない。同じところを行ったり来たりと重複も多い。たぶん取りこぼしているところもあるに違いない。それでも許せてしまうのは、その健気さゆえのことだろう。

小一時間ほど走り回ったあと、ロボットは疲れたようにして自分の充電キチへと舞い戻っていく。このときの少し速度を落としての、小さく腰を振るシヨサがかわいい。「あつ、よく頑張ったね」と、ロボット内部に集められたホコリや塵の量を見て、思わず III のことばをかけてしまうのだ。

このロボットとの同居を始めると、部屋の隅のケール類を巻き込んでギブアップしないように、椅子と壁との袋小路に入り込んでしまわないようにと、いろいろと気を使う。これもロボットのためののだ。「あれっ？ これでは IV ということになってしまわないか」と思いつつも、これはこれで許せてしまう。

ここで興味深いのは、結果として部屋はともきれいなになっているということだろう。床のホコリが取り除かれただけではない。椅子の配置も、部屋の隅もすっきりと片付けられている。私一人でこの部屋を片付けたわけではない。お掃除ロボットの一方的な働きだけでもない。一緒に部屋をきれいにして

しまったということなのだ。

A、このロボットがもう少し完璧に仕事をこなすものであったらどうか。「もっと静かにできないの?」「もっと早く終わらないの?」「この取りこぼしはどのようなの?」と、私たちはその働きに対する要求水準をもう少しエスカレートさせてしまうことだろう。

さて、お掃除ロボットに愛着を感じながら仲良く同居している私たちの姿というのは、傍からはどのように映るものなのだろう。ロボットの健気な振る舞い、甲斐甲斐しく働く姿…。それはそのように見えるだけであり、必ずしもロボットはそうした思いで行動しているわけではない。私たちが勝手に解釈し、一方的に V しているだけなのである。

それと、半ばロボットに振り回されるようにして、部屋の中を一緒に片付けてしまう姿というのはどうなのか。ちょっと油断するならば、私たちがロボットに使われてしまうのではないかと警戒する向きもあるかもしれない。ただ、そうした姿は微笑ましくも、そこに痛々しさや後ろめたさのようなものを感じることはないように思う。

ロボットというのは、電源スイッチがオフの状態にあつては、置き場所にも困るようなモノにすぎない。 B スイッチを入れてみると、身体に血が通いはじめたかのように各関節がイッセイに動きはじめる。冷静に見れば、それはプログラムどおりに動作する、ちょっと複雑なキカイにすぎないのだけれど、その振る舞いに生き物らしさを感じてしまう。くわえて、「オハヨウ!」ということはなどを発するならば、半ばソーシヤルな存在を指向するような側面もある。

こうしたロボットと関わる際の新奇さや違和感は、この「モノ」と「他者」とのあいだという微妙なポジションから生じているように思われる。まずは、⁴ 素朴な道具から高度なキカイへ、そしていまだ他者とはなりきれていないロボットのいまの姿を見ておきたい。

日々の暮らしのなかで、なにげなく使われる道具の一つにハサミがある。この素朴な道具のおもしろさは、役割や機能を一方的に主張しすぎないことだろうか。そもそもハサミはそこに置かれただけでは、用をなさない。それを使う人の手の中にあつてはじめて、紙を切り刻む、糸を断つなどの役割や機能が立ち現れる。ハサミを使う人も、自分の手の動きとそのハサミとの関わりをなかで巧みな技を生み出していく。

その関わりには成熟を伴う。熟練していく手の動きのなかで、ハサミに新たな機能や役割が備わると同時に、それを使う人は巧みに使いこなす者として、そのハサミの働きにより新たな価値が与えられるのだ。

C ハサミは受動的でとても素朴な道具でありながら、それを使う人と一緒になって新たな価値を構成しあうような関係を生み出し続ける。とても生成的なものといえるだろう。

その一方で古くからの道具にくわえて、最近では新たな機能を謳^{うた}う情報機器も増えてきた。これらの機器と私たちの関わりはどのようなものか。パソコンやスマートフォン、そして銀行にあるATMなど、ボタンやスイッチを押せば、何らかの便利な機能で応えてくれる。たしかに便利なだけけれど、ちょっと物足りないような気がする。少し窮屈な感じもする。

たとえばATMを利用するときなど、決められた手順に従って慎重に操作することが求められる。少しでも誤るなら、すぐにやり直しを求められてしまう。「なんと理不尽な…」と思いつつも、VIの利かない機械の前で、私たちは一方的に指示されるだけのキカイのような存在として構成されてしまう。ATMから叱られるようにして、オドオドしながら操作する姿は、とても痛々しく映ることだろう。

機能や役割が作り込まれすぎると、そのシステムとの関わりは窮屈なものとなりやすい。そこでオリジナルな関係や役割を生み出す余地は少ない。その関係は成熟していくことがない。高機能を謳った情報機器の寿命がそれほど長くなく飽きられやすいのは、そのためだろうと思う。

私たちの生活の中にも入り込みつつある、医療機器や介護ロボットとの関わりはどうだろう。定期健康診断などで胃部のX線検査を行うとき、撮影台に身体を横たえるような状況を考えてみたい。

「はい、右にまわってください」「はい、息を止めて」「はい、今度は、左にまわって、うつぶせになってください」「はい、もう少し左です…」と、撮影台の回転に伴い自分の身体は上下左右へと激しく揺すられる。その台からずり落ちないように、両手でしばらく踏ん張ってみる。そうしたときは、「ゲッ
プは我慢してね」と⁵くぎを刺されていることもあり、声も出せずに指示に一方的に従うだけだ。

「はい、今度は左にまわってください」の指示は、何を意図したものか。丁寧に撮影ポイントを探っているという向きもあるけれど、実際のところは、私たちの身体を揺すりながら、バリウムを胃の中にまんべんなく^{ひび}拡げているだけだったりする。胃袋という名のピーカーを^こ攪拌しているようなものだろうか。この撮影台の中で、私たちの身体はシンプルなモノとして構成されてしまう。

このような事態は、いま医療や介護現場に入り込みつつあるロボットとの関わりにおいて、数多く生じているように思う。おばあちゃんの身体をフワリとクレーンのようなもので持ち上げて、車椅子へと移乗させることを手伝ってくれるロボット。「とても便利なもの！」と思いつつも、おばあちゃんはそこで何もできずに^Dシンミョウにしているだけである。D、口元までご飯を運んでくれるロボットのアーム。その関わりでは、ロボットの采

配のなかで私たちが生かされている、そんな痛々しい構図を生み出してしまふのだ。

ひとり暮らしの高齢者にとって、日々面倒を見ている犬や猫などのペットや草花は、自分たちの生き甲斐を見出す^{みいだ}ためにとっても大切なもの。「これをロボットで代替できないだろうか…」というややVII議論のなかで、ペットタイプのロボットがいくつか開発されてきた。

それはおばあちゃんの心を癒やしてくれるもの、ある人たちにとってはなくてはならないものかもしれない。「もし簡単に手に入るものなら、おばあちゃ

んにプレゼントしようかなあ」と思った人も多いことだろう。ただ、おばあちゃんとロボットとの関わりを考えると、「話し相手が必要ななら、ロボットに話し相手をしてもらえばいいのではないか」という気にはなれない。⁶ それはどうしてなのか。

小さなロボットの仕草に心のようなものを感じながら、おばあちゃんは優しく語りかける。そこまではいいけれど、その素っ気ない応答や表情のなかに、ロボットの**おばあちゃん**に対する態度が映し込まれてしまう。

これらの応答は、あるシンプルなプログラムによって作り込まれたものにすぎない。いくつかの状況に合わせて、ことばが選ばれるとしても、おばあちゃんの時々の心情に配慮したことばはまだ生み出せてはいない。音声認識などがうまくいかずに沈黙してしまうことも多い。おばあちゃんの話しかけに対するロボットの沈黙は、優しい語りかけを無視しているようにも映る。こうしたロボットとの関わりでは、簡単に無視できるような軽い存在として、おばあちゃんを構成してしまうのだ。

それと気になるのは、おばあちゃんが小さなロボットに関わろうとするとき、そこに**わずかでもコミュニケーション**はあるのか、ということである。気持ちを伝えようとしても伝わらない、なにか疎通した感じがしない。そんな **VIII** ロボットに、なにかを求めて懸命に関わろうとする。そんな姿はとても痛々しいものに映ってしまう。認知症を伴う場合など、不用意にもおばあちゃんの**弱い部分**を周囲にあらわに**してしまうのだ**。

ハサミという素朴な道具から、さまざまな機能を備えた情報機器への進化、そして「もう一人の他者」として期待されるロボットたち。その**トジョウ**にあつては、未熟で独りよがりな行動がそれと関わる人 **IX** 存在へと落とし込んでしまう。あるいは、私たちが**思わぬ方向**へと構成してしまうことがある。

ここで必ずしもハサミのような素朴な道具のレベルに戻ろうということではない。 **E** 、ハサミと人の手との関わりのなかにあつたような、相互に新たな価値を構成しあう生成的な関わりを人とロボットとのあいだにも取り戻すことはできないだろうか。

⁷ お掃除ロボットの振る舞いをもう一度見直してみたい。このロボットは、ときどき床の上のコードに巻き付いてギブアップしてしまう、椅子の脚に囲まれた袋小路に入り込み、そこから抜け出せなくなる。そんな弱点を物ともせず、ロボットは部屋の中を軽快に動きまわる。むしろ、その弱さは結果として人からの手助けや愛着を引き出しているようなのだ。ロボット自らが意識していたわけではないにせよ、結果として、**私たち**を**味方**につけながら、お掃除をしていたのである。

味方につけていたのは、私たちばかりではない。ロボットは部屋の壁や椅子の脚に **I** 接触するたびに、進行方向を小刻みに変える。この振る舞いは、ホコリを見落とすことのないようにと、いかにも**甲斐甲斐しくお掃除**をしているかのように映る。ところが掃除の邪魔にならないように床の

上に置かれた椅子やテーブルを取り除いてみると、ロボットの動きは一変してしまうのだ。

少し広くなった部屋の中で、ロボットはとりあえずまっすぐに走り出す。しばらく走ったあとに、部屋の向こうの側面に接触すると、次の新たな方向を決め、またまっすぐに動き出す。このように、とても機械的な動きになってしまう。

床の上に置かれた椅子やテーブルの脚は、ロボットにとっては障害物のように見えただけでも、それらはロボットの甲斐甲斐しく働く姿を作り上げていた。くわえて、ランダムな要素を加味しながら、部屋をまんべんなくお掃除する動きを作り出している。ロボットは私たちの手助けを引き出すと同時に、部屋の壁や椅子の脚までも味方につけながら、お掃除をしていたといえるだろう。

自分の中にすべてを抱え込むのではなく、少し力を抜くようにして、周囲に半ば委ねてみる。その関わりのなかで、一緒に部屋をきれいにするということを実現してしまう。こうした X ともいえるロボットの姿勢はなぜか微笑ましい。自分の中だけで解決することに拘こたわった個体能力主義的な方略に比べると、とてもスマートに思えるのである。

このロボットと関わる私たちの姿はどうだろう。ロボットに振り回されているという悲壮感はない。むしろ「手のかかるロボットだなあ…」と思いつつも、このロボットと一緒に部屋をきれいにすることを楽しんでいる。

その意味で、ロボットは私たちに参加の余地を与えてくれただけでなく、人としての能力や優しさを上手に引き出しているようにも思える。その関わりのなかで、私たちはこのロボットにとっての「他者」として構成されていたとはいえないだろうか。

（岡田美智男『ともに』あるロボットを求めて）より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

出典：岡田美智男『ともに』あるロボットを求めて』『ロボットの悲しみ』

問一 二重傍線部 A～E のカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① キ|ジョウ|ロン

(1)

② 就職をケイキに上京する

D ① ニユウ|シンの作

(4)

③ キブツ|ソンカイ

② シン|シな態度

④ カイキ|セン

③ フ|シン|ニンアン

⑤ キジク|ツウカ

④ ゴ|シンが多い試合

B ① ショ|メンをもって回答する

(2)

E ① ジョウ|ウ|ジセツ|ゾク

(5)

② ショ|シン忘るべからず

② ベツ|ジョウ|ウなし

③ ショ|カンを述べる

③ ジョウ|ウ|ソウキョウ|ウイク

④ タン|ショ|が開ける

④ ジョウ|ウ|シン|ショ

⑤ ショ|ム係

⑤ カ|ゲン|ジョウ|ウヨ

C ① フセイ|シユツの天才

(3)

② ケンセイ|を誇る

③ メイセイ|を得る

④ ゼンセイ|キ

⑤ 校歌のセイ|シヨウ

問二 傍線部 1「高を括くくっていた」、傍線部 3「たわいもない」、傍線部 5「くぎを刺さされている」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部 1 ① 見くびっていた

② 予想していた

③ 覚悟していた

④ 確信していた

⑤ 残念に思っていた

(6)

傍線部 3 ① 容易で場当たり的な

② 予測できず不思議な

③ 目的もなく意味のない

④ 幼くて無邪気な

⑤ しっかりせずまとまりのない

(7)

傍線部 5 ① 目で制せいされている

② はつきりと注意ちやういされている

③ かたく禁きんじられている

④ 暗ほに仄ほめかされている

⑤ あらかじめ確認かくんされている

(8)

問三 空欄 I 〃 X に入れるのに最も適当なことを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|--------|---|-------------------------|---|---------------------------|---|-----------------------|---|----------------------------|------|
| 空欄 I | ① | パンパンと | ② | ガツンと | ③ | カチカチと | ④ | コツンコツンと | ⑤ | ゴツンと | (9) |
| 空欄 II | ① | 意図的な | ② | 効率的な | ③ | 科学的な | ④ | 機械的な | ⑤ | 場当たりのな | (10) |
| 空欄 III | ① | 当てつけ | ② | 揶揄 <small>からか</small> い | ③ | 戒め | ④ | 仄めかし <small>ほ</small> | ⑤ | 劳 <small>ねま</small> い | (11) |
| 空欄 IV | ① | 自縄自縛 | ② | 竜頭蛇尾 | ③ | 朝令暮改 | ④ | 主客転倒 | ⑤ | 自家撞着 <small>しどうちやく</small> | (12) |
| 空欄 V | ① | 試行錯誤 | ② | お節介 | ③ | 四苦八苦 | ④ | 感情移入 | ⑤ | 過干涉 | (13) |
| 空欄 VI | ① | つぶし | ② | 目端 | ③ | 機転 | ④ | 替え | ⑤ | 融通 | (14) |
| 空欄 VII | ① | 向こう見ずな | ② | 後手に回った | ③ | 遠回りな | ④ | 悲観的な | ⑤ | せっかちな | (15) |
| 空欄 VIII | ① | 気難しい | ② | 寡黙な | ③ | 居丈高な | ④ | 素っ気ない | ⑤ | 如才ない | (16) |
| 空欄 IX | ① | 受動的な | ② | 消極的な | ③ | 厭世 <small>えんせい</small> 的な | ④ | 排外的な | ⑤ | 自発的な | (17) |
| 空欄 X | ① | 力尽く | ② | 人任せ | ③ | 負んぶに抱っこ | ④ | 責任逃れ | ⑤ | 他力本願 | (18) |

問四 傍線部2「ちよつと『してやられた感』を覚える」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自分の負担を減らすために、お掃除ロボットを購入したのに、掃除の重複やホコリや塵ちりの取りこぼしが多く、床自体はそれほどきれいになっていないから。
- ② 健気に働くお掃除ロボットの様子を見て、ロボットが掃除できるように気を使って周囲を片付け、気づいたら一緒に部屋をきれいにしてしまっているから。
- ③ お掃除ロボットが軽快な電子音とモーター音を立てながら動き始め、家具にぶつかりながらも進行方向を変えながら移動していく様子に目を奪われ、かわいらしさを感じてしまったから。
- ④ 期待せずにお掃除ロボットを使い始めたが、同じところを行ったり来たりしながらも健気に掃除をしてくれ、ホコリや塵ちりも十分掃除できていて、技術の進歩に驚いたから。
- ⑤ 人と共生できるロボットが出現するのはまだ先の話だと思っていたのに、十分に高性能で、なおかつ健気な振る舞いを見せるお掃除ロボットと

の同居が楽しくなってしまったから。

問五

空欄 A

空欄 E

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A ① すると

② では

③ このように

④ さらに

⑤ つまり

(20)

空欄 B ① だから

② ところが

③ なぜなら

④ たとえば

⑤ すなわち

(21)

空欄 C ① くわえて

② 一方

③ そこで

④ したがって

⑤ このように

(22)

空欄 D ① たとえば

② あるいは

③ だが

④ というのも

⑤ それでも

(23)

空欄 E ① その一方で

② もっとも

③ それゆえ

④ すなわち

⑤ けれども

(24)

問六

傍線部4「素朴な道具から高度なキカイへ」とあるが、筆者はハサミとATMの違いについてどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(25)

① ハサミは、使用者ごとに、いつも新たな価値を生み出し続ける生成的な道具だが、ATMは、システムと使用者との関わり方が窮屈で、どのような使用者であっても同じ役割や機能しか果たすことができず、使用者との関係が成熟していくことがない機械である。

② ハサミは、使用者と一緒に新たな価値を構成しあうような関係を生み出し続ける道具だが、ATMは、システムと使用者との関わりが窮屈で、使用者との独自の関係や新たな役割を生み出す余地が少なく、使用者との関係が成熟していくことがない機械である。

③ ハサミは、ハサミを巧みに使いこなしている人にとっては、新たな技を生成しうる道具となるが、ATMは、ボタンやスイッチで決められた手順による操作をするだけで、だれでも常に等しく便利さを享受できる機械である。

④ ハサミは、使用者が手に取って操ることによってその役割や機能が立ち現れる受動的な道具だが、ATMは、決まりきった役割や機能を強く主張し、使用者に決まった操作手順しか許さないことで、使用者という新たなキカイを生み出す機械である。

⑤ ハサミは、使用者自身が手の中でそれを巧みに操り、役割や機能を実現させるという点に生成的な価値がある道具だが、ATMは、システムと使用者との関わりが窮屈な代わりに、ボタンやスイッチだけで簡単に役割や機能を実現させるという点に独自の価値がある機械である。

問七 傍線部6「それはどうしてなのか」とあるが、その理由の説明として、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(26)

- ① 話し相手が必要なおばあちゃんなのに、ロボットはおばあちゃんの心情に配慮せず、語りかけを意図的に無視してしまうことがあるから。
- ② おばあちゃんの優しい語りかけに対するロボットの反応があまりにも不愛想で、逆におばあちゃんの寂しさを助長してしまうから。
- ③ おばあちゃんがどれだけ懸命に話しかけたとしても、ロボットはそのことを理解できず、そこにコミュニケーションはないから。
- ④ ロボットの応答や沈黙が、ロボットに働きかけるおばあちゃんを軽い存在として構成し、その弱い部分をあらわにしているから。
- ⑤ 高齢者にとって話し相手が必要なのは確かだが、ことを理解できないロボットにその役割を任せることは、倫理的にできないから。

問八 傍線部7「お掃除ロボットの振る舞いをもう一度見直してみたい」とあるが、筆者はお掃除ロボットの振る舞いについて、どのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(27)

- ① お掃除ロボットは、時折コードに巻き付いたり、袋小路から抜け出せなくなったりするが、そのような障害物を取り除いてやれば、また甲斐甲斐しく機械的に働き始め、どうか役割が果たされていることをアピールしている。
- ② コードに巻き付いたり、袋小路から抜け出せなくなったりするなど、弱点の多いお掃除ロボットだが、機械的な動きを繰り返しながらも、人に導かれるようにして部屋をまんべんなく掃除することには成功している。
- ③ コードに巻き付いたり、袋小路から抜け出せなくなったりするお掃除ロボットの弱さが、結果的に人の手助けや自身への愛着を引き出し、周囲を味方につけながら、部屋をきれいにすることに成功している。
- ④ 一見、機械的にしか動けないお掃除ロボットに人が振り回されているようだが、実は椅子やテーブルを動かしながら掃除ができるように仕向けているのは人であり、間接的にロボットを操る人の能力が引き出されている。
- ⑤ あちこちにつつきながら、ランダムに動き回り掃除をしているお掃除ロボットだが、その動きのなかで、人の手助け、さらには愛着までも引き出している様子から、すでに人とロボットとの共生が始まっていることが実感できる。

II

次の問いに答えなさい。(四〇点)

問一

A～Cの傍線部と同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A しいたげる

① ジギヤクテキな発言

② カフクはあざなえる縄の如し

③ カイメツテキな被害

④ 生活がコンキユウする

⑤ フクツの闘志

B ねんごろだ

① コウデイする

② オンシヤを与える

③ コンセツ丁寧

④ トクシカ

⑤ アンネイを願う

C くわだてる

① キョウサセントウ

② 犯罪をキトする

③ トクシユサギ

④ キせずして

⑤ ボウリヤク

問二

A～Cの四字熟語の意味の説明として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 悪戦苦闘

① 圧倒的な力を持つ相手に打ち勝とうとすること。

② 困難な状況で苦しみながら努力すること。

③ うまくいく見込みがなくても努力すること。

④ 予想外の難問に困り果てること。

⑤ うまいやり方がわからず、何度も失敗すること。

B 単刀直入

① 相手の誤りをはっきり指摘すること。

② 包み隠さず率直に話すこと。

③ ずばりと問題の本質を突くこと。

④ 前置きなしに本題から話すこと。

⑤ 最も言いたいことだけを言うこと。

(32)

(31)

(30)

(29)

(28)

C 青天白日

- ① 後ろ暗い点がないこと。
- ② すつきりとしたよい気分であること。
- ③ 先がよく見通せること。
- ④ すべての問題が解消されたこと。
- ⑤ 気持ちを新たに始めて始めること。

(33)

問三

A、Cの語の対義語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|--------------------------|------|------|------|------|
| A 自発 | ① 強制 | ② 任意 | ③ 能動 | ④ 勝手 | ⑤ 即興 |
| B 生産 | ① 破壊 | ② 需要 | ③ 投資 | ④ 機能 | ⑤ 消費 |
| C 暗黒 | ① 燦然 <small>さんぜん</small> | ② 明白 | ③ 透明 | ④ 澄明 | ⑤ 光明 |

(36) (35) (34)

問四

A、Cの熟語と意味的な組み立てが同じ熟語を、次の①～⑦の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 芳香……

(37)

B 気絶……

(38)

C 臨海……

(39)

- ① 私設
- ② 着席
- ③ 带状
- ④ 裝飾
- ⑤ 室内
- ⑥ 分裂
- ⑦ 入試

問五

傍線部の慣用語の使い方が適当でないものを、次の①～⑦の中から三つ選びなさい。

(40)

(41)

(42)

- ① 警察の警告を受けた群衆は、蜘蛛の子を散らすように逃げていった。
- ② 面倒な仕事を頼まれそうになったので、何とか話題を変えてお茶を濁した。
- ③ 高校最後の試合に向けて、油を搾るように練習に取り組んだ。
- ④ 大学時代に指導していただいた教授の前では、いつもうだが上がらない。
- ⑤ 初めての大きな大会で、チームのメンバー全員が浮足立っていた。
- ⑥ 彼からは、いつでも打てば響くような答えが返ってくる。
- ⑦ 引越しを少し手伝っただけなのに、尾ひれをつけてお礼をくれた。

問六 例文A～Cの波線部と意味用法が最も近いものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

例文A この靴は修理がきく。

- ① 料理の味をきく。
- ② 生意気な口をきく。
- ③ ブレーキがよくきく車だ。
- ④ 冷房がよくきく。
- ⑤ まだやり直しがきく。

例文B 努力のあとが見える。

- ① 城のあとを散策する。
- ② あとさきを考えず行動する。
- ③ 故郷をあとにする。
- ④ あと二人必要だ。
- ⑤ 不審者のあとをつける。

例文C 写真で見るよりきれいだ。

- ① そんなことより早く出発しよう。
- ② 思ったより早かった。
- ③ 真ん中より後ろには座らないでほしい。
- ④ 手術するより手はない。
- ⑤ 御予約は二名様より承ります。

問七 例文の傍線部と同じ種類の敬語を、次の①～⑦の中から二つ選びなさい。

例文 こちらからの御連絡が遅くなり、申し訳ございませんでした。

- ① 貴重なお話を拝聴いたしました。
- ② お問い合わせがごさいます。
- ③ 御乗車のお客様はお急ぎください。
- ④ 御挨拶を申し上げます。
- ⑤ 御自宅に伺います。
- ⑥ お手を拝借いたします。
- ⑦ お茶を習っております。

(46)

(47)

(45)

(44)

(43)

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただくと幸いです。

2020/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2020 Hiroshima International University, All rights reserved.
